
魔法使いと弟子～ 弟子がくるちょっと前の話～

碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法使いと弟子　　弟子がくるちよつと前の話

【Nコード】

N5384Q

【作者名】

碧

【あらすじ】

魔法使いと弟子の番外編です

淋しかった。

あの頃の自分はそんな感情に支配されていた。

自覚はなかったけど。

確かに自分は「淋しかった」のだ。

『こらっ！掃除をサボルなあ！』

魔法の失敗で偶然水鏡に映った見馴れぬ光景。

それが自分の住む世界とは別の世界だと気付くのにさほど時間はかからなかった。

『誰が鬼婆ですってえ〜〜！もう、怒ったっ！歯あ食いしばりなさい！』

十四、五歳ぐらいの子供たちが集められた見慣れぬ建物の中で一際目立つ一人の少女。

気の強そうな瞳。怒り狂って上気した頬。

全身全霊で「生きている」と言わんばかりに生气に溢れた少女が酷く彼の心に残った。

日々うつろいゆく季節の中で水鏡は異世界の少女の姿を彼に見せる。

『ちょ！大丈夫！！』

ずっと見ていると少女が責任感が強く、困った人を放っておけない酷く善良な人間であることがわかった。

『そつかあ・・・よかった』

ほっとしたような笑顔。

決して自分には向けられることのない笑顔にどうしてだか胸が騒いだ。

もしも。

有り得ない考えが頭の隅からひょっこりと湧き出て来た。

もしも、彼女が自分の側にいてくれたら。

きつと凄く、楽しい。

あの声で顔で全身で生きている少女が自分に笑ってくれたらそれだけで自分も「生きている」と感じるができるだろう。

「・・・あ・・・たい・・・」

久しぶりに零れた言葉は掠れて水鏡に消える。

君に逢いたい。

魔法使いは寂しかった。

何故、寂しいのか理由すらわからなかった。

ただ彼は気付かないまま側にいて欲しいと思える少女をみつけた。

側にいてほしくて、ただ、笑って欲しく、それだけだったのに。

彼は何も気付いていなかった。

その想いは罪ではない。

だが、彼が行ったことは・・・確かな罪だったことに。

「私の側に・・・いて」

寂しい魔法使いは魔法を使った。

大きな大きな魔法。

彼の他には誰も使えない魔法。

彼自身も二度と使えない魔法。

己の罪に気付かずただ、側にいて欲しかった。

己が罪を彼はまだ、知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5384q/>

魔法使いと弟子～ 弟子がくるちょっと前の話～

2011年2月1日00時00分発行